

下村 脩 博士ノーベル化学賞顕彰記念胸像製作
および長崎大学薬学部教職員と長薬同窓生の
交流を支援する関連事業

募金趣意書

ご挨拶

謹啓

時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より長崎大学薬学部の教育・研究活動に対して深いご理解と温かいご支援をいただき誠にありがとうございます。さて、既に皆様はご存知のこととは存じますが、長崎大学名誉博士、同名誉校友である下村 脩博士が10月19日に、享年90歳で長崎市にてご逝去されました。長崎大学薬学部にとって偉大な先達を失った悲しみはとて言葉では言い尽くせませんが、謹んでご逝去を悼むとともに、生前の温かいご指導に対し改めてお礼申し上げます。

長崎大学薬学部は平成27年に創立125周年を迎え、多くのご支援により同年11月7日に創立125周年記念行事を執り行うことができました。長崎大学薬学部は、長い歴史の中で、臨床、行政、教育、そして研究の各分野で活躍する多くの優秀な人材を輩出してきました。中でも、下村博士は、長崎大学薬学部で教員として活躍され、その後、名古屋大学を経て、米国に渡り、現在の分子生物学の発展に欠かすことのできない緑色蛍光タンパク質(GFP)を発見され、平成20年(2008年)にノーベル化学賞を受賞され、顕著な業績をあげられました。全国に75ある薬学部および薬科大学の中で、ノーベル賞受賞者を輩出したのは長崎大学薬学部だけであり、下村博士は長崎大学薬学部同窓生、教員、学生、全員の誇りです。下村博士のこれまでのご功績と生命科学研究へのご貢献に対し、心よりお礼を申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

長崎大学薬学部では、長薬同窓会との相談の上、下村博士のご功績を讃え、後世に伝えるために、下村博士の胸像を製作し、記念事業をとり行うことを決定しておりました。既に、下村博士にお伺いを立てて胸像の設立の許可を得てから、長薬同窓会に依頼し、当時の同窓会長であった山中国暉先生を会長とする下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念胸像製作および長崎大学薬学部教職員と長薬同窓生の交流を支援する関連事業後援会を立ち上げておりました。また、薬学部と同関連事業会を設立し、胸像製作と長薬同窓会会員の支援を目的とした計3つの記念事業を計画しています。下村博士のご存命中に胸像を完成させ、記念事業にご参加いただきたいという願いは残念ながら叶いませんでしたが、当初の目的達成のため、事業は継続したいと考えております。つきましては、誠に恐縮ですが、本記念事業の趣旨にご理解とご賛同をいただきますよう謹んでお願い申し上げます。

敬白

平成30年11月吉日

長崎大学薬学部長

黒田 直敬

下村 脩 博士ノーベル化学賞顕彰記念胸像製作 および長崎大学薬学部教職員と長薬同窓生の 交流を支援する関連事業の概要

(1) 下村 脩 博士の胸像の製作

下村博士の功績を称え、後世に伝えるために下村博士の胸像を製作し、長崎大学薬学部ロビーに設置します。

(2) 長崎大学薬学部教職員と長薬同窓会会員の交流促進

長崎大学校友会の基盤となる長崎大学薬学部教職員と長薬同窓会会員の交流促進のための「長薬同窓会会員名簿」や「長薬同窓会報」の発行、「長崎大学薬学部教職員と各同窓会支部との交流事業」の支援を行います。

(3) 長薬出身の長崎大学薬学部教職員の海外派遣

長薬出身となる長崎大学薬学部教職員の海外派遣の支援を行います。

募金趣意書

長崎大学薬学部は、明治 23 年（1890 年）に設置された第五高等中学校医学部に薬学科が付設された時を創立の期として、今年で 128 周年を迎えます。さらに、長崎市小島養生所跡地で昨年発見された分析窮理所が長崎大学薬学部の起源であるということが新聞等で取り上げられ、起源を見直す機運も高まっております。長崎は日本の近代自然科学および薬学の発展に重要な役割を果たした街です。江戸・明治期には、その後の日本の薬学の発展を担う多くの科学者が長崎の地で活躍しました。長崎大学薬学部からも多くの優秀な同窓生が卒業し、各分野で活躍しております。特に、長薬同窓生のお一人である下村 脩 博士の平成 20 年のノーベル化学賞の受賞は、長崎大学薬学部で学んだ者にとっての誇りであります。本年、長崎大学薬学部において下村博士の功績を讃える胸像を製作することになったことを、長薬同窓生の一人としてこの上なく嬉しく思います。下村博士の受賞に際して片峰 茂 学長（当時）は、「自分たちが今呼吸し、生活している場所で、ノーベル賞学者が日夜研究に没頭していた姿をイメージし意識できるようになったこと、これが下村先輩から長崎大学の若者へのかけがえのない贈り物なのです。」と述べられました。また、下村博士は、長崎大学で講演された際には、“物事の根底にある真理を探究する研究を好まれること。”や“生物発光の研究には未開拓の部分が多く、新しい仕組みの発光生物を研究するための方法論は存在しないため、まずは研究方法を開発あるいは創造しながら研究を進めてきたこと。”など下村博士が取り組んできた研究姿勢を後進に教えて下さいました。長薬同窓会は本事業に賛同し、また、事業の遂行を支援していくため、長薬同窓会の平成 30 年度役員会におきまして、「下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念胸像製作および長崎大学薬学部教職員と長薬同窓生の交流を支援する関連事業後援会」を発足することが承認されました。125 周年記念事業では、長崎大学薬学部や学生を支援しましたが、今回は胸像の設立と共に長薬同窓会や長薬系教員を支援し、会員交流や後進育成に関する事業を展開して参ります。

既に皆様はご存知のこととは存じますが、本事業会を立ち上げている中、下村博士のご逝去の悲報が届きました。下村博士の訃報に接し、まことに痛惜の念にたえず、長薬同窓会一同を代表し、ここに謹んで哀悼の意を表します。下村博士のご活躍は長薬同窓会会員の誇りでした。ここに下村博士のご遺徳を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

皆様におかれましては、下村博士のご功績を顕彰し、また、下村博士の研究に対する崇高な精神を長崎大学薬学部で学ぶ後輩へと継承し、さらに後進の長薬同窓生を支援していくためにも、下村脩博士胸像製作ならびに長薬同窓会会員支援のための計 3 つの関連事業の趣旨にご賛同をいただき、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念胸像製作および長崎大学薬学部教職員と

長薬同窓生の交流を支援する関連事業後援会会長 山中 國暉

下村 脩 博士ノーベル化学賞顕彰記念胸像製作
および長崎大学薬学部教職員と長薬同窓生の
交流を支援する関連事業後援会組織

会 長 山中 國暉

副会長 佐々木 均 七種 均 山口 正広 秋吉 隆治
藤島さとみ 高良 真也

委 員 (支部長並びに本部役員)

相川 康博	青野 拓郎	池田 朝美	池田 光政
石橋 眞	井上 智喜	今村 明久	織田堅一郎
椛島 力	里 加代子	澤勢 瑞城	末澤 克己
田中 重雄	田中 秀二	鶴丸 雅子	手嶋 無限
歳森三千代	中村 忠博	橋本 覚	原 正朝
福地 弘充	藤田和歌子	藤戸 博	本多 雅幸
増田 和久	森 昭雄	山口 拓	山本喜一郎

(※ 50音順)

寄附のご案内

募金期間	平成30年12月10日から平成31年6月30日まで
募金対象者	長崎大学薬学部同窓生 長崎大学薬学部教職員 本会の趣旨に賛同する個人、法人、団体等
寄附の単位	個人による寄附金については、1口5千円を単位とします。 法人・団体等による寄附金については、1口の金額は定めません。

募金活動について

募金額 10口以上 銘板への記載権

大変恐縮ですが、法人・団体等の銘板への記載は、100口以上とさせていただきます。

※ 胸像（銘板）は、長崎大学薬学部ロビーに設置の予定です。

下村 脩 博士ノーベル化学賞顕彰記念胸像製作
および長崎大学薬学部教職員と長薬同窓生の
交流を支援する関連事業会組織

会 長 黒田 直敬 (薬学部長)

副会長 西田 孝洋 (薬学科長)
田中 隆 (薬科学科長)

委 員	石原 淳	稲嶺 達夫	岩田 修永	上田 篤志
	植田 弘師	大庭 誠	大山 要	尾野村 治
	川上 茂	岸川 直哉	北里 海雄	栗山 正巳
	黒崎 友亮	小嶺 敬太	齋藤 義紀	佐々木 均
	城谷 圭朗	武田 弘資	田中 正一	谷村 進
	塚原 完	塚元 和弘	中嶋 幹郎	中山 守雄
	西内 弥生	萩森 政頼	春山 貴弘	福田 隼
	淵上 剛志	麓 伸太郎	松尾 洋介	都田 真奈
	宮元 敬天	山田 耕史	山本 耕介	山本 剛史
	山吉 麻子	吉田さくら		

(※ 50音順)

お問い合わせ先

長崎大学薬学部

〒852-8521 長崎市文教町1番14号

TEL 095-819-2415 FAX 095-819-2412

ご寄附に伴う個人情報の取り扱い

ご寄附により取得した個人情報につきましては、

個人情報保護法等を遵守の下、本学からお送りするお礼状、

寄附金証明書の送付のほか、本学から寄附者様へご連絡する必要がある場合のみ利用いたします。